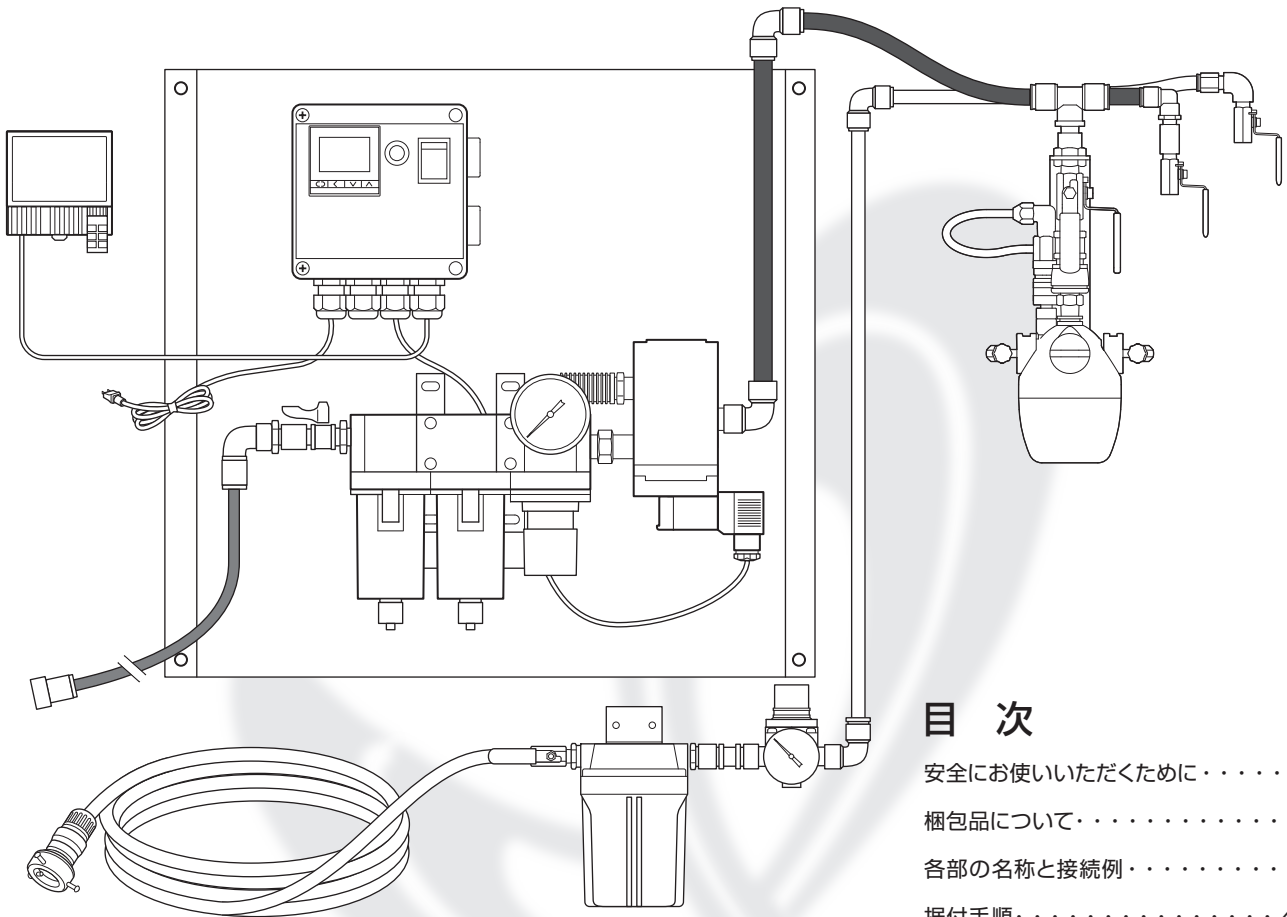


ドライフォグ加湿キット

AEKIT 取扱説明書

(壁取付タイプ)

湿度自動制御器、ドライフォグ加湿器の
取扱説明書と併せてお読みください。



目次

安全にお使いいただくために	1
梱包品について	2
各部の名称と接続例	3
据付手順	4~8
制御器本体の名称と操作方法	9
お手入れ方法	10
部品交換	10~12
故障かな?と思ったら	13
感湿器(センサーの異常調査方法)	13
湿度センサーの使用上の注意点	14
仕様	15



安全にお使いいただくために

必ずお読みください

このたびは、霧のいけうちドライフォグ加湿キット「AEKIT」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本キットは当社湿度自動制御器とドライフォグ加湿器をユニット化した製品です。

ご使用前に本書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

また、必要に応じて湿度自動制御器とドライフォグ加湿器の取扱説明書も併せてお読みください。

ご使用時は、本書をいつでも見られる場所に保管してください。



本書では安全注意事項のランクを「警告」「注意」で区分しています。

警告  誤った取扱いをすると、死亡又は重傷を負う可能性が想定される場合。

注意  誤った取扱いをすると、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性、及び物的損傷の可能性が想定される場合。

注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので、取扱方法は必ず遵守いただき、安全にご使用ください。

警告 	<p>正しい電源電圧でお使いですか？</p> <ul style="list-style-type: none">本機に記載されている電源電圧以外は使用できません。 異なる電圧を使用した場合、発火や破損等の重大な事故が起こる恐れがあります。 <p>コンプレッサー容量をお確かめください</p> <ul style="list-style-type: none">本機のご使用には、噴霧ユニット1台当たり0.4～0.8kW 29～58NL/min(空気圧0.3MPa時)のコンプレッサー容量が必要です。 ご使用前に、必ずコンプレッサーの容量をお確かめください。 <p>配線工事は確実に</p> <ul style="list-style-type: none">端子の緩み等で、電気ショートする恐れがあります。 <p>本機と配電盤の間にブレーカを入れてください</p> <ul style="list-style-type: none">万一の電気ショートの予防になります。(ブレーカはお客様でご準備ください。) <p>結線時以外は内部を触らないでください</p> <ul style="list-style-type: none">感電する恐れがあります。結線時は、必ずブレーカを切ってから行なってください。
注意 	<p>取付けは確実に</p> <ul style="list-style-type: none">落下などで、破損する場合があります。 <p>感湿器(センサー)の設置場所にご注意ください</p> <ul style="list-style-type: none">有機溶剤、酸、アルカリ、油分がある場所に感湿器を設置しないでください。劣化が早く、寿命が短くなります。 水濡れや結露する場所への設置も避けてください。ノイズによる誤作動が発生しますので、誘導負荷及び電波障害のある近辺には設置しないでください。 <p>噴霧キット全体の設置場所にもご注意ください</p> <ul style="list-style-type: none">高温、低温及び直射日光、雨ざらし等の環境で使用しないでください。 <p>本機のお手入れは、中性洗剤と柔らかい布をお使いください</p> <ul style="list-style-type: none">有機溶剤や磨き粉、たわし等で洗うと、変色や傷の原因になります。 <p>感湿器(センサー)フィルターは清潔に保ってください</p> <ul style="list-style-type: none">感湿器の湿度センサーフィルターが汚れていると、誤作動の原因になります。 こまめに掃除してください。汚れが落ちなくなったら、フィルターを交換してください。 <p>ノズルの取扱いにご注意ください</p> <ul style="list-style-type: none">ノズルはプラスチック製品です。落としたり衝撃を与えないでください。破損することがあります。 <p>■ 水以外の液体を噴霧される場合は、最寄りの営業所へご相談の上で使用ください。 ■ 地域によっては水処理機器が必要となります。最寄りの営業所へご相談ください。</p>

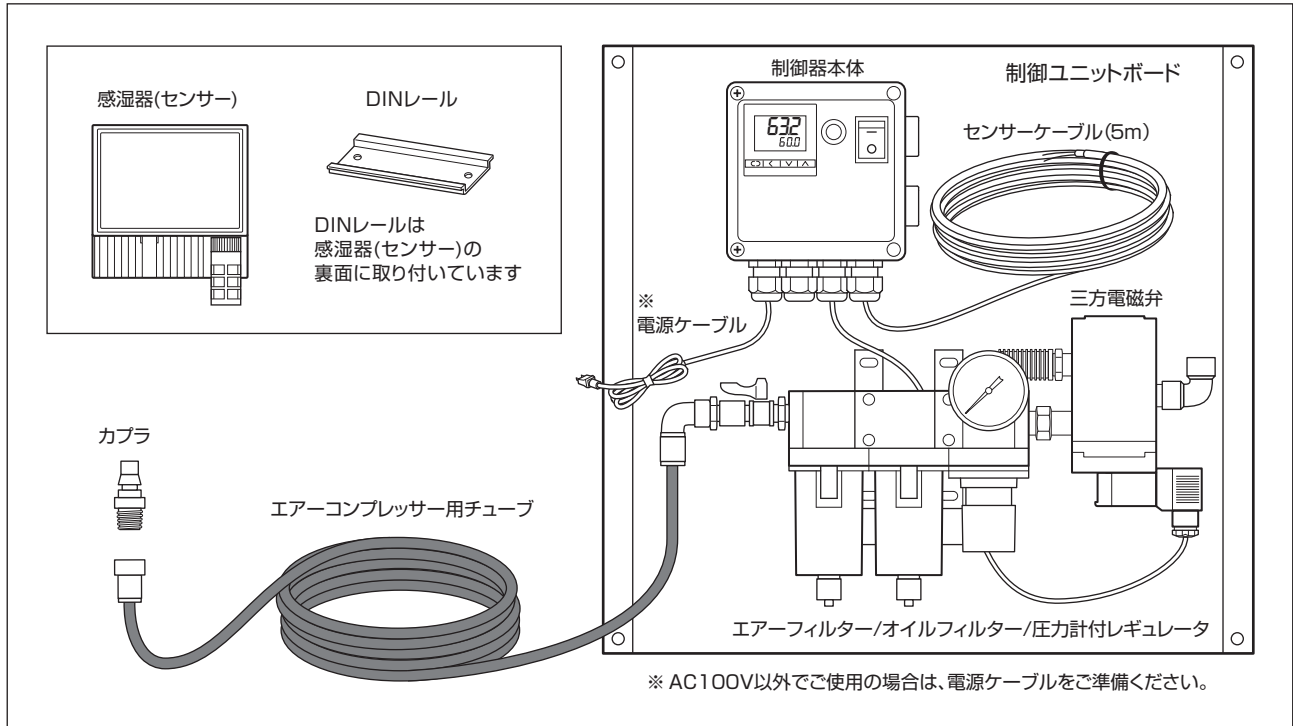
梱包品について

開梱の際に、下記部品が揃っていることをお確かめください

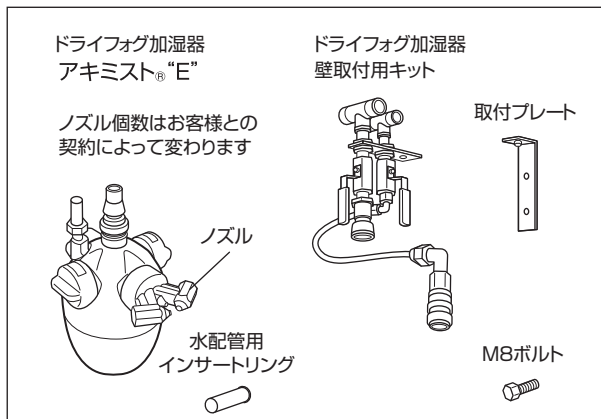
万一不足している部品がございましたら、お買い上げの販売店にご連絡ください。

部品の数量やホース/チューブの長さは仕様によって異なります。商品資料と併せてご確認ください。

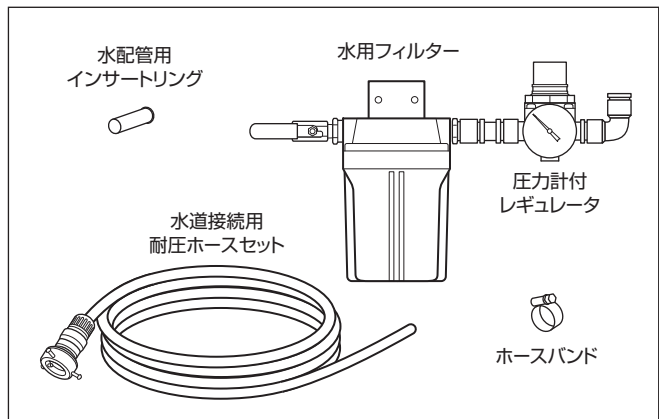
AEKIT Control Unit



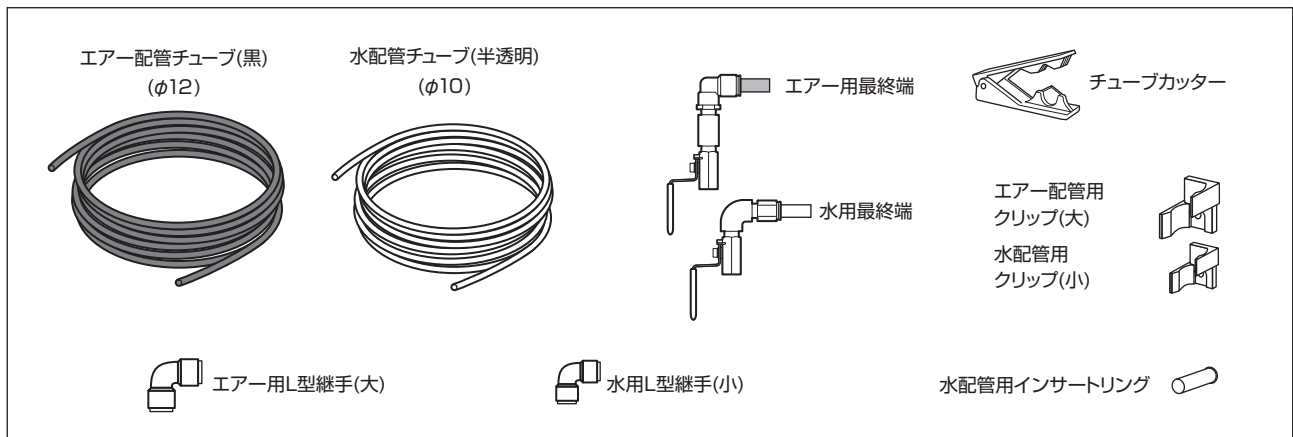
AEKIT Nozzle Unit (お客様との契約によって個数は変わります)



AEKIT Water Unit

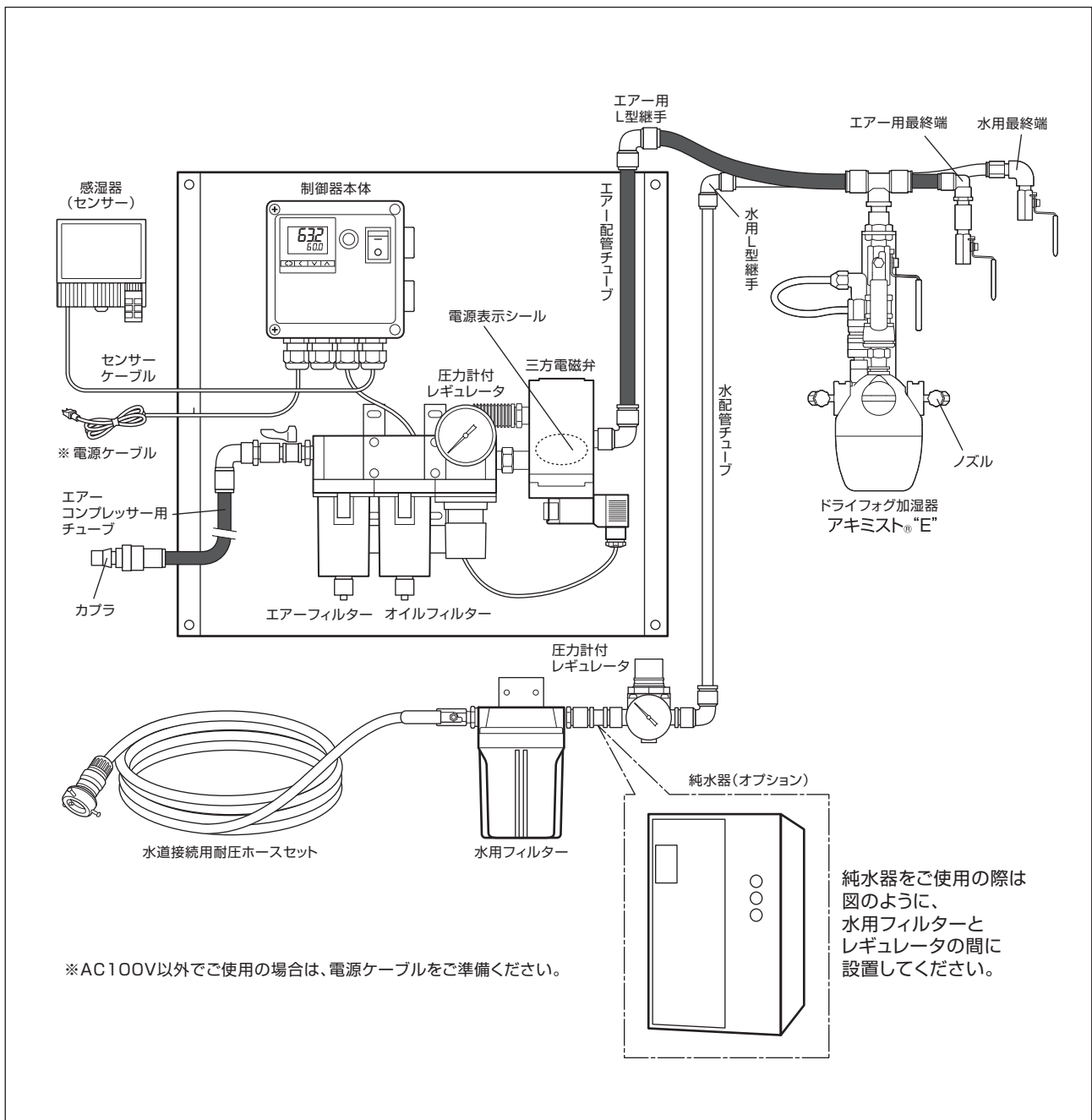


AEKIT Piping Unit



各部の名称と接続例

各部品の名前と設置時の位置関係例です。



据付手順

本機には各部品の壁面への取付用ネジは付属していません。
設置する壁面に応じたネジをご用意ください。

Control Unitの取付け

Control Unitには、横520×縦480の間隔で
φ9の取付穴を4か所設けています。
設置壁面の材質に合ったM8ネジ4本で固定してください。
取付けが終わりましたら、
センサーケーブルを感湿器(センサー)に
結線してください。

注意



この時点では、まだ制御器の電源ケーブルを
電源に差し込まないでください。

感湿器(センサー)の配線

注意



配線は、間違いなく確実に結線してください。
誘導負荷(電動機及び電磁弁等)の電線とセンサーケーブル線とは
並行配線及び同一電線管内での布線はしないでください。

1. センサーケーブルの結線

感湿器(センサー)のカバーを開け、下の角穴の後ろ側から
センサーケーブルを通して、赤のセンサーケーブル(+)を
左から2番目の穴に接続してください。

その際、接続穴の上にある角穴に精密ドライバーを奥まで差し込み、
上方向に押し上げると、接続穴の端子金具が下側に開き、
ケーブルが入れやすくなります。
同様に、白のセンサーケーブル(-)を左から3番目の穴に接続して
ください。

2. 結線完了後、カバーを閉じてください。

感湿器(センサー)の取付け

注意

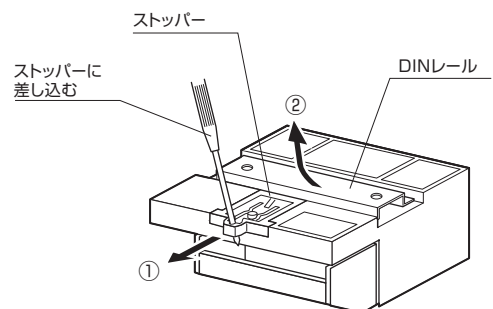
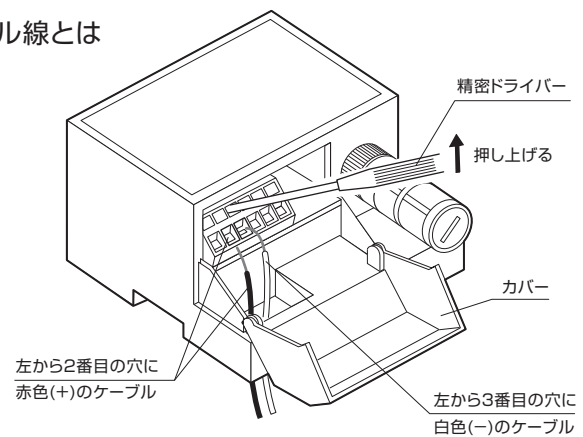
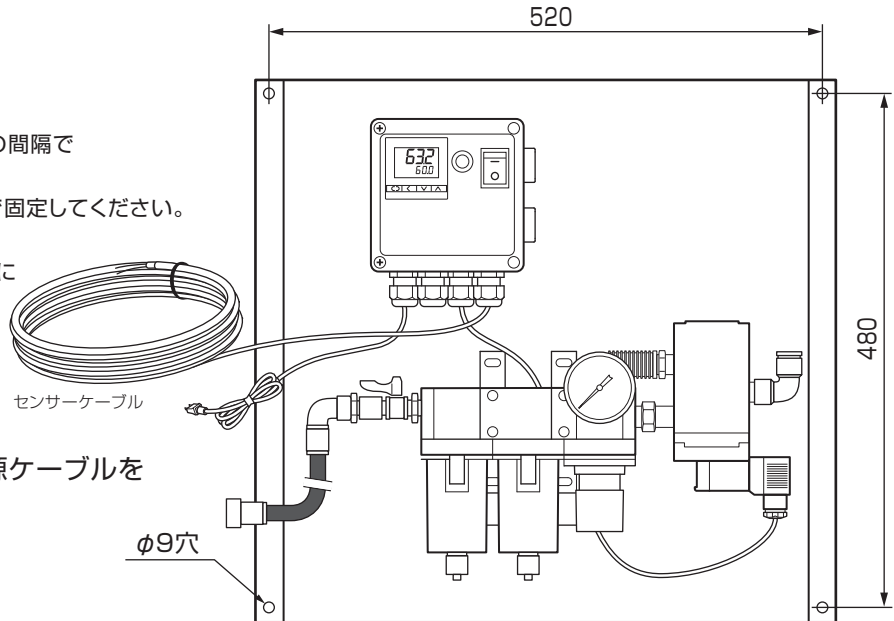


感湿器は、有機溶剤、酸、アルカリ、油分がある場所に設置
しないでください。劣化が早く、寿命が短くなります。
また、水漏れや結露する場所への設置も避けてください。

感湿器(センサー)は、背面のDINレールを壁面にネジ止めし、
その後、感湿器(センサー)をレールにはめ込んで固定します。

1. DINレールの取外し

感湿器(センサー)背面のDINレールストッパーに、精密ドライバー等の
先の細い工具を差し込んでストッパーを矢印①の方向に解除し、
DINレールを矢印②の方向に外してください。

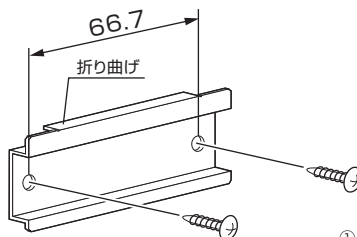


据付手順

本機には各製品の壁面への取付用ネジは付属していません。
設置する壁面素材に応じたネジをご用意ください。

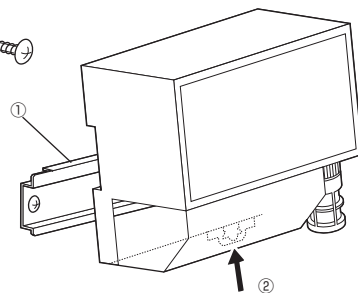
2. DINレールの取付け

DINレールの折り曲げがある側を上にして、
壁面に合ったM4ネジ(2本)で固定してください。



3. 感湿器(センサー)の取付け

右図DINレールの①部分に感湿器(センサー)背面のフックを掛けてから、
ストッパーを矢印②の方向に戻して、感湿器(センサー)を固定してください。



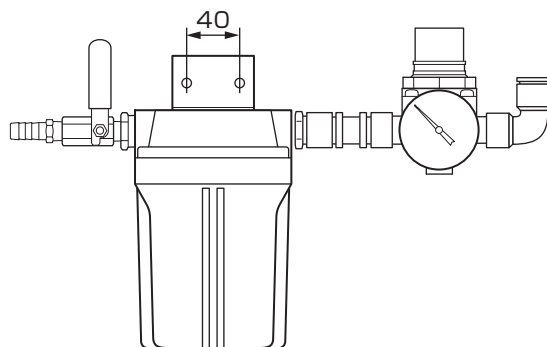
水用フィルターの取付け

設置壁面の材質に合ったM6ネジ(2本)で固定してください。

注意

Water Unit には、インサートリングを付属しています。
配管時に使用しますので、無くさないように保管してください。

水配管用インサートリング



ドライフォグ加湿器の取付け

壁面取付用キットの取付プレートを先に壁面に取り付けます。
設置壁面の材質に合ったM6ネジ(2本)で固定してください。
次に、付属のM8ボルトでドライフォグ加湿器壁取付用キットを
取り付けてください。

その後、ドライフォグ加湿器 アキミスト®"E"を取り付け、
水用カプラをドライフォグ加湿器に差し込んでください。

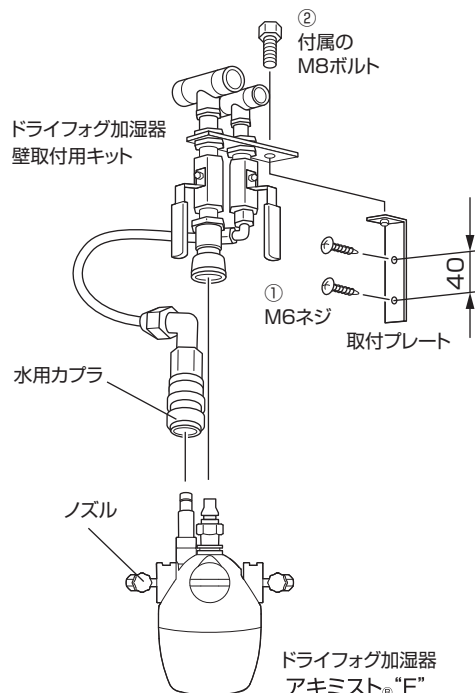
注意

Nozzle Unit やノズルの個数は、契約条件によって変わります。

注意

ドライフォグ加湿器は、インサートリングを付属しています。
配管時に使用しますので、無くさないように保管してください。

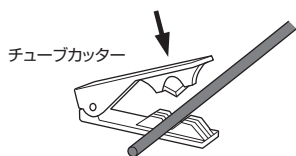
水配管用インサートリング



据付手順

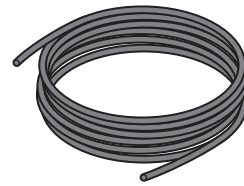
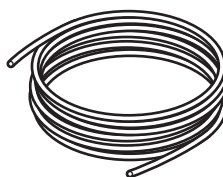
配管方法

チューブの切り分けには、
付属のチューブカッターをお使いください。



水配管チューブ(半透明)
(φ10)

エア配管チューブ(黒)
(φ12)



注意

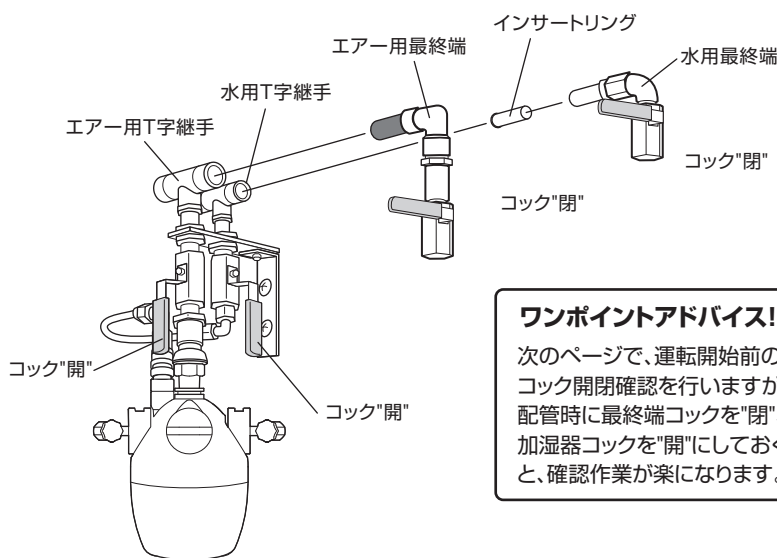


最終端には、あらかじめチューブが取り付けられていますので、
事前に準備する必要はありません。

最終端の配管

Nozzle Unit のエア用T字継手に
エア用最終端を差し込んでください。

水用最終端にあらかじめ付いているチューブの
先端にインサートリングを挿入し、
水用T字継手に差し込んでください。



注意



本機は水用インサートリングを
使用ユニットごとに付属していますが、
部品形状は全て同じものです。

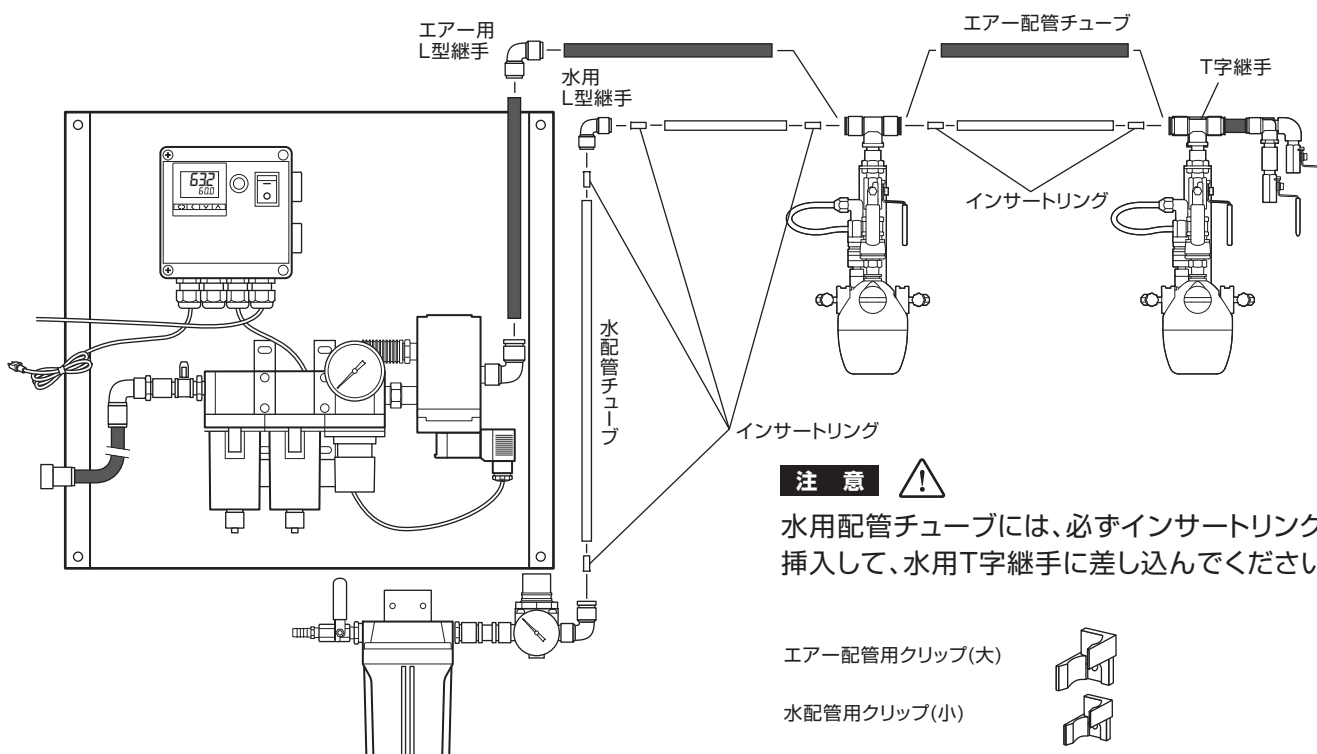
ワンポイントアドバイス!

次のページで、運転開始前の
コック開閉確認を行いますが、
配管時に最終端コックを"閉"
、加湿器コックを"開"にしておくと、
確認作業が楽になります。

Control Unit、Water UnitとNozzle Unit 間の配管

下の図は、Nozzle Unit を2個使用する際の配管例です。

ドライフォグ加湿器の設置間隔に応じてエア配管チューブ、水配管チューブをカットし、L型継手/T字継手に差し込んでください。
配管後、壁面の要所要所にクリップをネジ止めし、配管チューブを固定してください。



注意



水用配管チューブには、必ずインサートリングを
挿入して、水用T字継手に差し込んでください。

エア配管用クリップ(大)

水配管用クリップ(小)



据付手順

エアーコンプレッサー、水道蛇口への配管

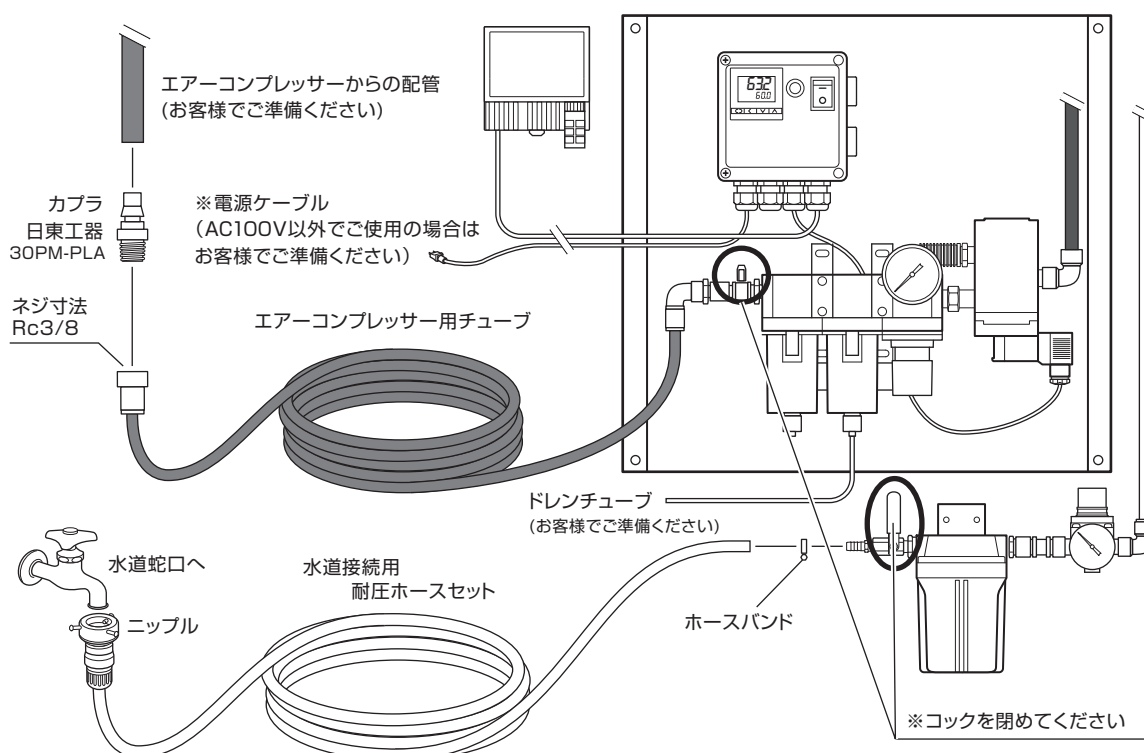
警告

本機のご使用には、噴霧ユニット1台あたり0.4~0.8kW 29~58NL/min(空気圧0.3MPa時)のコンプレッサー容量が必要です。配管前に、必ずコンプレッサーの容量をお確かめください。

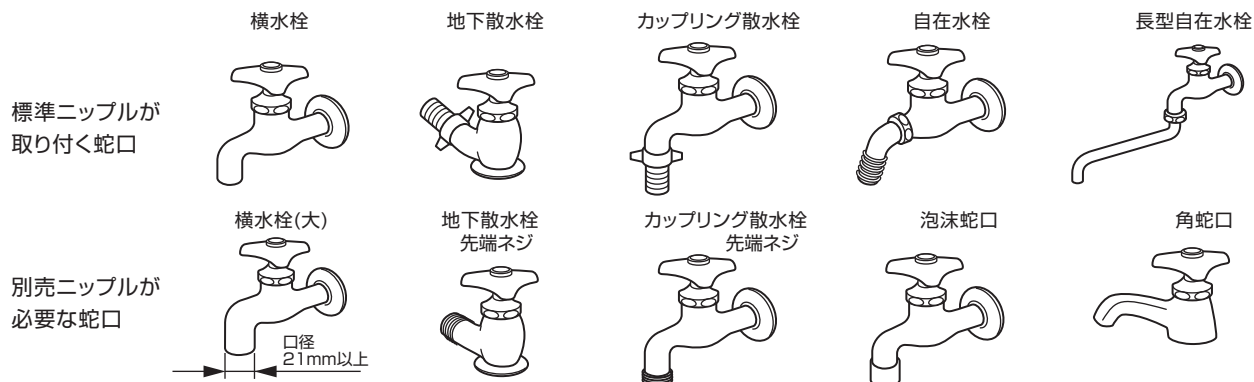
注意

エアーコンプレッサー及び蛇口に接続する前に、必ずエアーフィルター、水用フィルターのコックが閉まっていることをお確かめください。

エアーフィルターの手前にエアーコンプレッサー配管用チューブを組み付けています。また、カブラを別に付属していますので、エアーコンプレッサーからの配管をお客様でご準備いただき、カブラを通してチューブと接続してください。水の供給用にはホースセットを付属しています。ホースにホースバンドを通してホースの先を水用フィルターに差し込み、ホースバンドでしっかりと固定してください。もう片方の端は、ニップルを水道蛇口に固定してください。



付属の標準ニップルは蛇口の口径が14~18mmです。異なる蛇口形状に接続する場合は、市販のニップルをお買い求めください。



ドレンチューブをつなぐ

オイルフィルターはオートドレンで、無加圧時にフィルター内に溜まった異物を排出します。お客様でφ5~6のドレンチューブをご用意いただき、フィルターにつないでください。チューブの先は異物の排出に支障のない場所まで伸ばしてください。

電源ケーブルをつなぐ

最後に制御器の電源ケーブルを電源に差し込んでください。

据付手順

圧力設定

警告

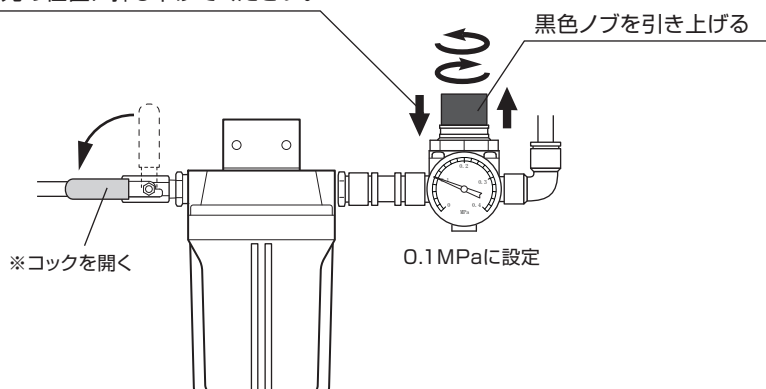
エアー、水用コックを開く前に、配管接続部を再度チェックし、緩み等不十分な接続になっていないか必ずお確かめください。

水の圧力設定

水道蛇口を開いたあと、水用フィルター手前のコックを開いてください。

水圧を0.1MPaに設定します。減圧弁の黒色のノブを引き上げ、圧力計を見ながら左右に少しずつ回して、0.1MPaで安定するまで水圧を調整してください。

調整後は、必ず黒色ノブを元の位置に押し下げてください。

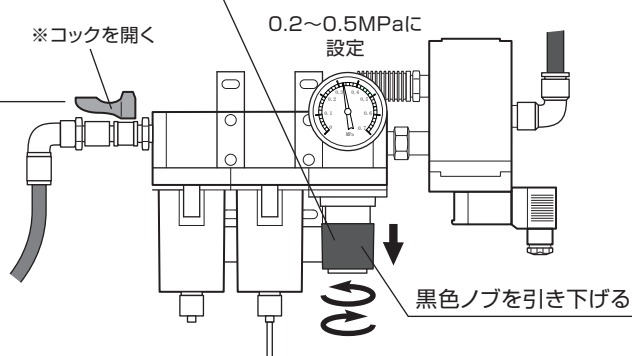


空気圧の設定

エアーコンプレッサーを稼働後、エアー用フィルター手前のコックを開いてください。

空気圧を0.2~0.5MPaに設定します。減圧弁の黒色のノブを引き下げ、圧力計を見ながら左右に少しずつ回して、0.2~0.5MPaの範囲で安定するまで調整してください。

調整後は、必ず黒色ノブを元の位置に押し上げてください。

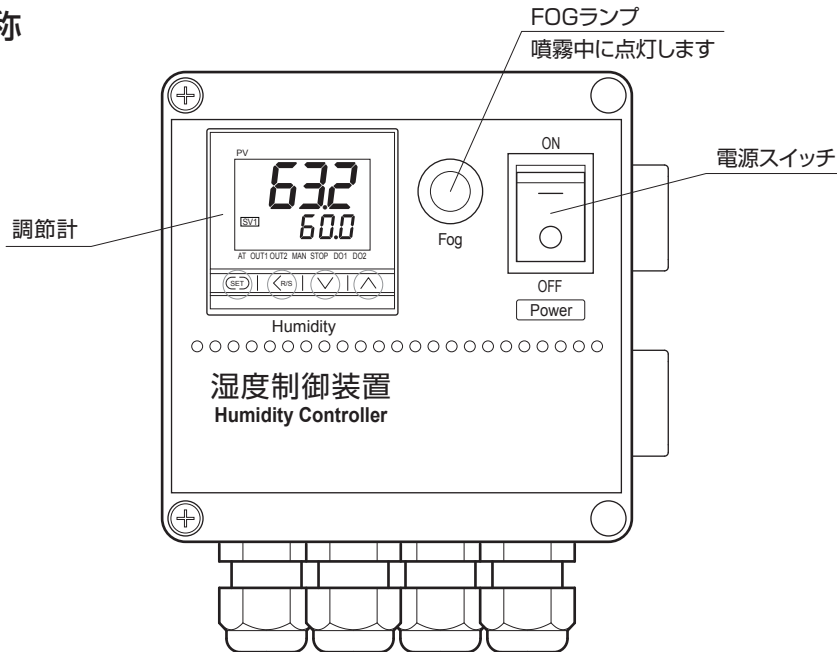


注意

空気圧の設定を終えた後は、一旦エアーフィルターのコックを閉めてください。次ページの制御器設定後、再度コックを開きます。

制御器本体の名称と運転方法

制御器本体の名称



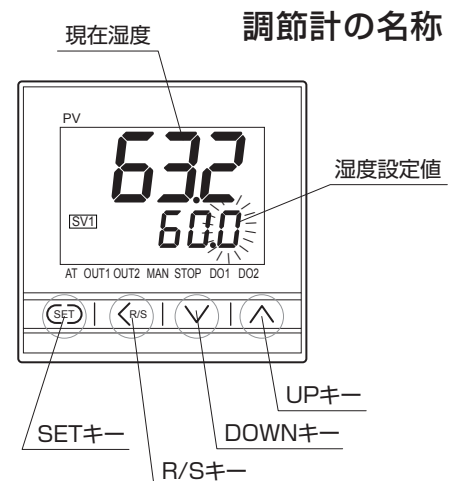
本機は、噴霧を開始する湿度をあらかじめ設定しておくことで、感湿器(センサー)が室内の湿度を感知し、現在湿度が湿度設定値以下になれば、自動的に噴霧が始まり、現在湿度が湿度設定値以上になれば、自動的に噴霧を停止します。

湿度設定値の設定方法

注意

電源スイッチをONにする前に、エアーフィルターのコックと水道栓が閉まっていることをお確かめください。エアーと水が開いた状態で電源スイッチをONにすると、上記条件によっては噴霧が始まってしまいます。

1. 上図の電源スイッチをONにすると、調節計の画面に現在湿度と出荷時点の湿度設定値が表示されます。右の例は現在湿度63.2%、湿度設定値60.0%を示しています。
2. SETキーを押すと、湿度設定値の右端の数字(0.1%の桁)が点滅します。点滅している部分を変更できることを表しています。UPキーまたはDOWNキーを押して、お好みの設定値に変更してください。
3. R/Sキーを押すと中央の数字(1%の桁)が点滅します。同様にUPキーまたはDOWNキーを押して変更してください。
4. もう一度R/Sキーを押すと左端の数字(10%の桁)が点滅しますので、UPキーまたはDOWNキーを押して変更してください。
5. 最後にSETキーを押すと、設定が完了します。



運転方法

湿度設定値の設定を終えたあと、水道栓を開き、エアー用フィルター手前のコックを開いてください。感湿器(センサー)が室内の湿度を感知し、現在湿度が湿度設定値以下になれば、自動的に噴霧がスタートします。

注意

使用を停止する際には、電源スイッチをOFFにして、必ず水道蛇口を閉めてください。



お手入れ方法

日常のお手入れ

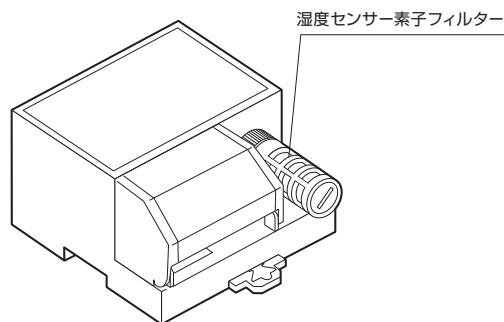
本機は感湿器(センサー)からの信号によって動作しますので、日常のお手入れは、感湿器(センサー)を中心に行ってください。

感湿器(センサー)のお手入れ

感湿器(センサー)に汚れが付いたときは、柔らかい布に中性洗剤をつけて軽く拭き取ってください。

湿度センサー素子フィルターにホコリや汚れが付いたまま運転を続けると、誤動作の原因になります。

湿度センサー素子フィルターは、随時エアブロー等で掃除してください。

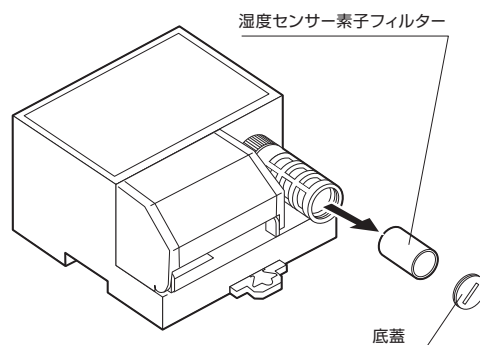


部品の交換

湿度センサー素子フィルターの交換

エアブローでも汚れが落ちなくなったときは、湿度センサー素子フィルターの交換が必要です。交換用湿度センサー素子フィルターは別売となっています。当社営業担当にご用命ください。

右図のように湿度センサー素子部分の底蓋をコイン等で回して外し、湿度センサー素子フィルターを抜き取って、新しいものと交換してください。交換後は、底蓋を元のように締めてください。



湿度センサー素子の交換

湿度センサー素子は消耗品です。

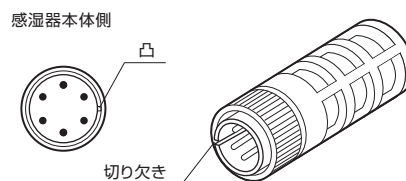
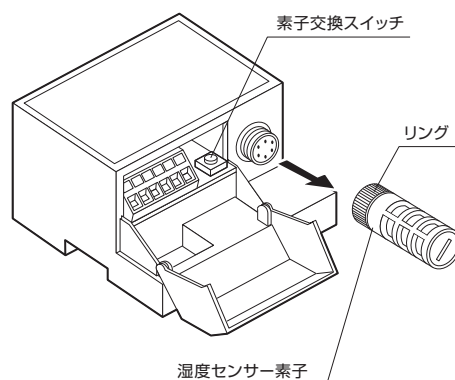
湿度センサー素子フィルターにホコリや汚れがない状態で制御器本体に頻繁に動作異常が発生したときは、湿度センサー素子の寿命が考えられます。交換用湿度センサー素子は別売となっています。当社営業担当にご用命ください。

1. 右図のように湿度センサー素子のリングを回して湿度センサー素子を外し、新しいものと交換してください。

注意

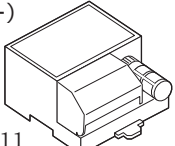
湿度センサー素子の端子差し込み部には方向性があります。交換の際は、本体側の凸と素子側の切り欠きを合わせて差し込んでください。

2. 交換後は、必ず素子交換スイッチを押してリセットしてください。

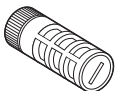


交換用部品


1. 感湿器(センサー)
No.2,3を
含みます
手配番号:#202511



2. 湿度センサー素子
No.3を含みます
手配番号:#205208



3. 湿度センサー素子フィルター
手配番号:#217049

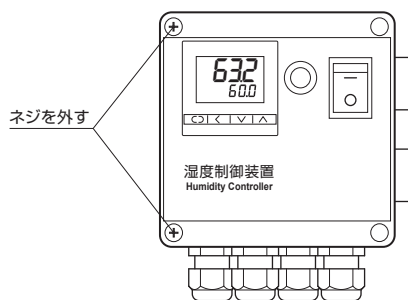


制御器本体ヒューズの交換

本機には、電磁弁(出力側)のショートなど、異常時の対策として、ヒューズを設けています。電磁弁出力が正常でない場合、ヒューズが切れることがありますので、問題の原因を取り除いたあと、以下の手順でヒューズを交換してください。

注意

ヒューズ交換は、必ずブレーカを切り、本機に電圧がかかっていない状態で作業してください。

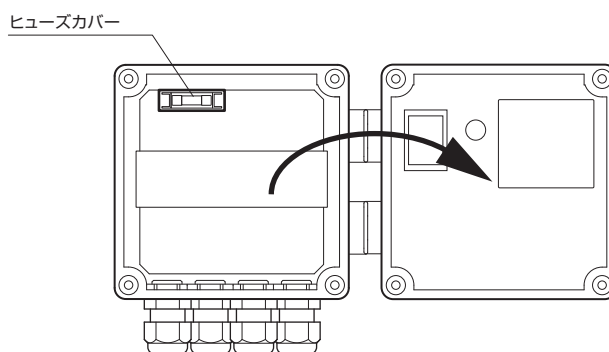


1. 制御器を開ける

制御器本体の2本のネジを緩めて、本体上部を右に開いてください。(ネジは抜け落ちない構造になっています。)

2. ヒューズを交換する

ヒューズは、ヒューズカバーの中に設置しています。ヒューズカバーを手で外すと、ヒューズも一緒に外れます。ヒューズカバーからヒューズを取り出して交換してください。



注意

ヒューズは、AC250V 1Aのものをご使用ください。

3. ヒューズ交換後は、制御器本体上部を閉じて、4本のネジをしっかりと締めてください。

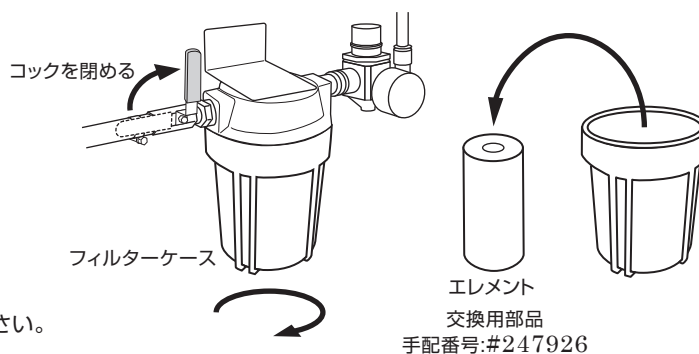


水用フィルターの交換

注意

水用フィルターを交換する際は、必ずフィルター手前のコックを閉めてから行ってください。

噴霧量が減り、間欠噴霧となればフィルターが汚れている可能性があります。フィルターケースを外して、中のエレメントを交換してください。



オイルフィルター/エアフィルターの交換

オイルフィルターはオートドレンですが、日常の目視チェックでフィルターの目詰まり等が発見されたときはエレメントを交換してください。エレメントの交換方法は、別添のオイルフィルター取扱説明書(品番:M3000)をご覧ください。エアフィルターの目詰まり等が発見されたときは、別添のエアフィルター取扱説明書(品番:F3000)を参照し、エレメントを交換してください。

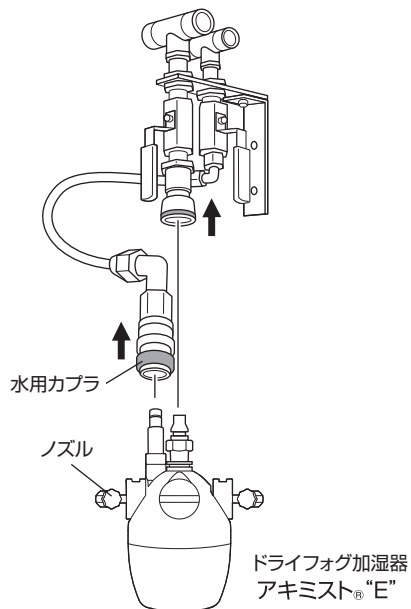
ノズルの交換

注意

ノズルを交換する際は、必ずエアと水の手前のコックを閉めてから行ってください。

ノズル先端を清掃しても霧が出ない場合は、ノズルを交換してください。

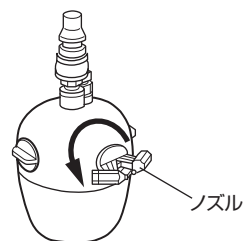
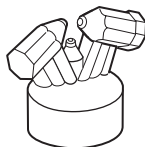
1. ノズル交換の際、高所での作業は危険ですので、一旦ドライフォグ加湿器ごと取り外して、平地に下りてから作業してください。
水用カブラのリング(右図灰色部)を上押ししながら水用チューブを外してください。
同じくエア部ソケットのリング(右図灰色部)を上押ししながらドライフォグ加湿器を外してください。



2. ノズルを矢印の方向にひねるとノズルが外れます。

交換用ノズルは別売となっています。
最寄の当社営業所にご用命ください。

部品番号:226214
(アキミスト®"E"用AKI03Cノズル)



ノズル及び加湿器に関する詳しい内容は、別添のドライフォグ加湿器アキミスト®"E"の取扱説明書をご覧ください。

故障かな?と思ったら

お問い合わせの前に、以下のことをご確認ください。

状 態	確 認 項 目	対 処 方 法
電源スイッチを入れても作動しない	ヒューズが切れている	ヒューズを交換してください(11ページ参照)
調節計の現在湿度表示が「UUUU」で点滅する	センサーケーブルが繋がっていない または、断線している	センサーケーブルの接続を点検してください
湿度表示がおかしい	感湿器(センサー)が適切な場所に設置されていない(設置場所の温度湿度が、他の場所と異なっている)	感湿器(センサー)の設置場所を再検討してください(相対湿度は設置場所の温度にも影響を受けます)
	湿度センサー素子が汚れている	湿度センサー素子フィルターを清掃又は、交換してください(10ページ参照)
	湿度センサー素子が寿命(※)	新品(有償)と交換してください(10ページ参照)
	湿度センサー素子の交換後「素子交換スイッチ」を押していない	「素子交換スイッチ」を押してください
噴霧ランプは点灯するが噴霧しない	圧搾エアー、水が止まっている	圧力計を確認し、圧搾エアー及び水を供給してください
	電磁弁が通電していない	電磁弁の配線を点検してください
噴霧しない 間欠噴霧する ノズルからボタ落ちする 霧が粗い	エアーの圧力過不足	0.2~0.5MPaに調整する
	ノズル噴口にゴミが付着している	ノズルを清掃する
	凍結している	エアー昇温度機器を設置する
	Nozzle Unitのコックが閉じている	コックを開く
	オイルドレンが詰まっている	オイルフィルターを清掃または交換する

※湿度センサー素子の寿命を確かめるには、下記の調査を行ってください。

感湿器(センサー)の異常調査方法

「ダミー素子」を利用することで、感湿器(センサー)の異常を調べることができます。

感湿器(センサー)の寿命や故障を調査するダミー素子(別売)をご用意しています。

1.ダミー素子の取付け

右図のようにセンサー素子のリングを回して湿度センサー素子を外し、ダミー素子を取り付けてください。

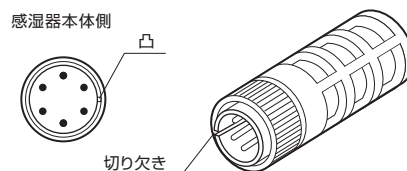
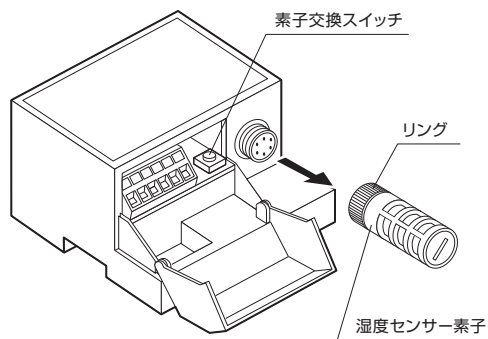
注意 

湿度センサー素子の端子差込み部には方向性があります。交換の際は、本体側の凸と素子側の切り欠きを合わせて差し込んでください。

2.取付後は、必ず素子交換スイッチを押してください。

ダミー素子を取り付けたあと、動作が正常に戻った場合は、外した湿度センサー素子に異常があるか、若しくは素子の寿命です。10ページの手順で湿度センサー素子を交換してください。

なお、ダミー素子と交換用の湿度センサー素子は別売となっております。当社営業担当にお申し付けください。



感湿器(センサー)の使用上の注意点

湿度センサー基板は消耗品です。

1.取付け場所に関する注意点

感湿器(センサー)の取付けに際して、下記場所を避けてください。

- ・ケトン系有機剤、エステル系有機溶剤、ハロゲン類、強酸系物質、腐食性物質、オイルミスト・塩分ミストの多い環境
乾湿エレメントは吸湿性高分子フィルムと水蒸気を透過する極めて薄い電極で構成されていますので、早い劣化が予想されます。
- ・結露の発生や雨水のかかる場所
- ・ホコリ、粉塵の多い場所
- ・直射日光が当たる場所や温度変化の激しい場所
- ・空気の流れによどみがあり、平均的湿度の得られない場所
- ・爆発性ガス、腐食性ガス、可燃性ガスなどがある場所
- ・周囲温度が0～50℃以外の場所(低い温度環境では「結露」のないことを確かめください)

2.感湿器(センサー)の校正について

本感湿器(センサー)は、基準湿度発生装置内で光学式露天計を二次標準器を用いて、高度に校正されて出荷しています。

なお、次の3項に記載のアスマン式のような通風乾湿球湿度計は、取扱い等による誤差が生じやすいため、湿度のトレーサビリティ体系に入っておらず、本感湿器(センサー)も比較を実施していません。

3.他の湿度計測器より得られる測定値との比較に際して

他の測定装置との比較を検証する際は、厳密には温度条件を同一にするために、恒温水槽に沈めたチャンバーに調湿空気を流した状態で実施する必要があります。

通常的环境下で他の装置と比較する際は、下記の点にご注意ください。

① アスマン乾湿計

取り扱い、JIS-Z8806に基づき、十分に注意ください。本感湿器(センサー)との差は10%RH程度になることもあります。

② 毛髪式湿度計

一般的に、毛髪の伸縮には3時間以上を要します。また、毛髪の伸縮は湿度だけでなく温度変化によっても発生しますので、このタイプを基準器とするのは無理と考えられます。10%RH程度の誤差が発生するものもあります。

③ ハンディ型湿度計

高分子膜を使用した製品は応答も速く十分に基準器として使用できます。ただし、ハンディ型湿度計の検出エレメントは性能変化が生じることもありますので、最低でも年1回の校正を実施してください。

4.湿度センサー基板の保守点検について

定期的に湿度センサーフィルターの汚れや目詰まりを点検してください。

空気中の塵埃の多い場所での使用は、年1回又は、使用環境に応じて頻度を増やし、点検・掃除・交換を行ってください。

また、長期の高精度、高信頼を維持するためには、湿度センサー基板の定期的な交換を推奨いたします。

5.湿度計測上の注意事項

① 温度変化が湿度に与える影響

相対湿度計測上、もっとも注意すべきことは温度です。温度の±0.1℃の差は、相対湿度±1%RHに相当します。

測定場所の温度が変化している場合は特にご注意ください。

② 応答性

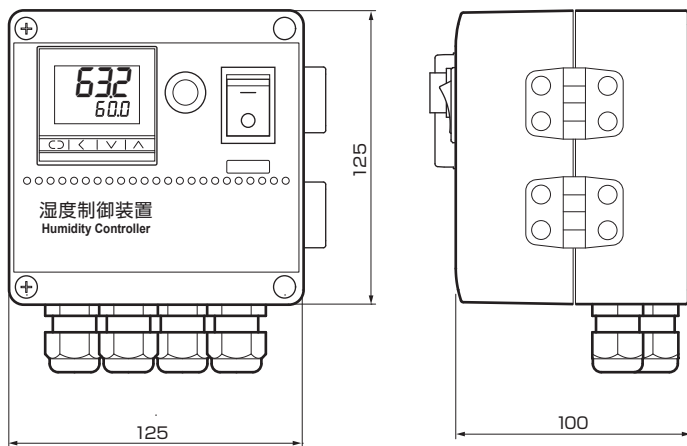
本感湿器(センサー)の温度変化に対する応答は単独で約5～15分ですが、近くに他の物体がある場合は、その影響を受け応答が遅くなります。また、最初の作動時には最低30分必要です。

仕 様

	項 目	仕 様	備 考
制御器本体	湿度設定範囲	0~100%RH	
	定格電源電圧	AC100V/AC110V/AC200V/AC220V/AC240V (50/60Hz、単相)(電源電圧は三方電磁弁に記載)	AC100V仕様のみ電源ケーブル付
	使用温度・湿度	0~50℃、0~85%RH	結露がないこと
	消費電力	約20W	
	運転方法	調節計の設定湿度と現在湿度を比較して 現在湿度<設定湿度のとき=噴霧 現在湿度>設定湿度のとき=停止	
	インターロック	外部機器から無電圧a接点信号を受けて動作許可	内部にジャンパー線を付けることで無効可
	ケース	ポリカーボネート	防滴仕様ではありません
	質量	約700g	
	外形寸法	W125 × H125 × D100mm	突起物を除く
感湿器 (センサー)	素子素材	高分子静電容量式	
	応答時間	素子単体1分以内	
	外形寸法	W90 × H90 × D48.3 mm	DINレール込み:突起物を除く

機能更新のため、予告なく仕様変更する場合があります。ご了承ください。

制御器本体 外形寸法(mm)



感湿器(センサー) 外形寸法(mm)

